

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月13日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870305000		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 和楽樹	ユニット名	1ユニット
所在地	〒300-0007 茨城県土浦市板谷1-478-3		
自己評価作成日	平成26年5月24日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870305000-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870305000-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年7月22日	評価機関 決 済 日	平成26年12月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは住宅地の外れに位置している為、背景に果樹園や田んぼ等の農地が広がり、閑静な住宅環境と豊かな自然環境の両方を享受できる立地にある。理念に掲げている市民生活の継続を具現化するよう、自治会の行事に参加したり、近隣の幼稚園との親交を深めたりと地域の方々との交流を図りながら利用者本位のケアを実践している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周囲には畑や田んぼが広がり、どの部屋の窓からも日差しが差し込み、緑に溢れ自然に囲まれながらのんびりと過ごせる環境になっている。  
玄関先は幅3メートルほどの緩やかな路面になっており、両端に手摺が取り付けられているとともに、玄関の中にも広いスロープが設置されているなど、車いすで安全に外へ出られるように配慮がされている。  
管理者と職員は常に利用者や家族等に耳を傾け、利用者本位の暮らしを支援ができるよう事業所独自の「ハートケアプラン」と称した、全利用者の写真とその利用者個人個人の希望や要望が記載されたプロフィールを事務室に掲示し、修正をしながら全職員で共有している。  
介護職員の半数が男性であり、互いに力量を發揮しながら日常業務を上手に役割分担している。  
近隣保育園とは年に6回交流会を行うほか、事業所で開催する「地域交流会」に区長や民生委員、家族等、地域住民、ボランティアが参加し、バイキングやボランティアによる歌や踊り、劇が披露されるなど、積極的に地域と交流している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に事務室内に掲げている理念の唱和を行っている。会社理念を具体化したホーム独自の目標も掲げており、職員の意識づけと共に実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念の他に、全職員で話し合っ作成した事業所独自の理念を玄関や事務室に掲示したり、パンフレットに掲載するとともに、毎朝の申し送り時に全職員で唱和し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に参加し、地域で行われる町内清掃や盆踊り大会・公民館で開催される行事等になるべく積極的に参加し、地域の一員として交流を図っている。	自治体に参加して町内の清掃活動に利用者と職員で参加したり、公民館で開催される初午祭や近隣の幼稚園で行われる盆踊り大会などの地域行事に参加している。 近隣の幼稚園のバザーに利用者と職員で制作した手提や髪飾りを提供したり、園児が手作りの折り紙作品を利用者にプレゼントするために来訪し、踊りや歌を披露している。 毎年区長や民生委員の協力を得て「地域交流会」を事業所で開催し、バイキングやボランティアによる歌や踊り、劇などの催しが行われ、地域住民を招待している。 年に5回腹話術やフラダンスのボランティアが来訪するなど、地域と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、認知症についての説明会を行うと共にホーム自体でできる事を話し合い、近隣の幼稚園に手作りの品物を寄付するなど、地域に貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、色々な情報交換や結果報告・ホームでの行事予定や支援方法等について話し合っている。また、そこで提案された意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は市職員や区長、民生委員、家族の代表などで2ヶ月に1回開催している。会議では行事や家族アンケートの結果を報告しているほか、市職員から介護保険法改正の説明を受けたり、感染症の勉強会を行っている。区長から「事業所の空き情報を回覧板で回す」との提案を受けて実施するなど、出た意見を運営やサービスの向上に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会は、諸事情により一時休止となっているが運営推進会議に行政から2名参加されており、事業所の実情や取組みについて伝えている。また、市町村担当者の定期的な訪問も実施されている。	管理者は市担当者や地域包括支援センターへ直接出向いたり、電話で空き情報や入居希望の相談、入居費の支払いが困難な利用者の相談などを行っている。市職員が年に3回来訪して生活保護受給者の様子を確認したり、利用者の相談をするなど、日常的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	役職者については、指定基準の理解を深めている。他職員については、役職者より随時説明している。また、手の届く場所に身体拘束の手引き書を置き、自由に閲覧できるようになっている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成するとともに、契約書に身体拘束を行わないことを明記し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に高齢者虐待防止のポスターを掲示したり、年2回内部研修を行い、全職員が身体拘束の内容と弊害を理解している。やむを得ず身体拘束をする場合に備えて書面で同意を得ているが、経過観察記録や再検討記録の書類を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束を行う場合は、期間を設定して定期的にカンファレンスを行い、必要性の有無や方法の妥当性、解除に向けての取り組みなどを話し合い、経過観察記録や再検討記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について半年に1回勉強会やカンファレンスを実施し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となるご入居者がいる場合は行政担当者に相談し、必要な提供ができるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にきちんと明示されており、入居契約の際には、十分に説明し同意を得ている。疑問がある場合は、納得して頂けるまで説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付の担当者が掲示されており、入居時に説明している。玄関に意見箱を設置している他、ご家族の要望・意見を汲み上げる為、無記名アンケートを実施している。	利用者からは日常の会話の中から、家族等からは来訪時や電話などで意見や要望を聴くように努めているほか、月1回社会福祉協議会の介護相談員が来訪し、利用者や家族等から意見等を聞いている。 玄関に意見箱を設置するほか、年2回事業所独自の無記名のアンケートを実施している。 利用者から「外出の機会を増やして欲しい」との要望を受け、月1回花見やドライブなどに出かけたり、家族等から「外食の際は少ない金額で行ける場所を」との要望を受けて回転寿司を利用したりするなど、出た意見等は職員会議で協議し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回業務カンファレンスを開催し、その際できるだけ職員全員参加のもと、意見や提案を吸い上げ運営に反映させている。	管理者は日常業務の中で職員が意見や要望を言い易い環境づくりに心がけている。 月1回開催される職員会議には代表者も参加し、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 脱衣所に置いてある洗剤などの整理整頓のために収納ボックスを購入し、職員の動線を考慮しながら物品整理を行ったり、自家菜園の野菜の苗の種類を増やすなど、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月業務に関する届出書(残業・休日出勤・有休・研修等)を提出する他、カンファレンス時に職員の要望を聞き入れるようにしている。また、職員が働きやすい環境整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職や経験・資格にあった研修が受けられるように考えているが、なかなか調整がつかない為、月1回のカンファレンスの中に研修・勉強会を取り入れて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回、代表者と各施設の管理者が集まり、話し合いの場を設けている。また、他グループホームと連絡を取り合い、お互いの状況等を報告し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ホーム見学を兼ねて来て頂き、ご本人の状態・悩んでいる事・要望等を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるようにしている。 見学に来られない方については、ご家族に来て頂き、話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ホーム見学を兼ねて来て頂き、ご家族の方が現状抱えている悩みや困っている事を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する際、グループホーム以外の介護サービスも紹介・説明し、ご本人及びご家族がその時必要としているサービスがご利用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事については、声掛け・説明し、なるべくご自分で行えるよう支援している。また、ご本人の趣味や特技を活かし、職員と一緒に活動するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある際には、広報誌やご家族面会時にご連絡し、参加して頂けるよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により行きたい場所があれば職員が同行したり、市外・圏外へ外出したいとの要望についてはご家族やご親戚の方にご連絡して送迎してもらおうようにしている。ご家族のいない方は、何らかの方法で思いが叶うよう支援している。	利用者の家族等や友人、知人が来訪した際にはお茶を出し、ゆっくり寛ぎながら会話ができるように支援している。 利用者の行き付けの美容室や墓参りは家族等の協力を得ているが、利用者が住んでいた家や行き付けの店への買い物は職員が同行したり、利用者の希望に応じて家族等や親戚と連絡を取って一緒に出かけられるよう支援するほか、親戚や友人からの電話を取り次いだりするなど、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活からご入居者同志の関係や相性を把握し、グループ分けや座席の調整を行い、孤立する事なく関わって生活していけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の契約が終了しても、ご入居者やご家族の方から要求がある場合は、必要な相談等に応じるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホーム独自のハートケアプラン表を作成し、日常の会話や活動の中でご本人がやりたい事・行きたい所・こうしてもらいたいと思う事等を書き出し、ご本人の希望や意向の把握に努めている。	職員は日常の関わりの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努めているほか、事業所独自に作成した「ハートケアプラン」を用いて利用者のやりたい事、行きたい所、要望などを職員が記録し、6ヶ月毎に修正をしながら事務室に掲示し、全職員で共有している。 意志を表出できない利用者の場合は、仕草や表情などから思いや意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他福祉サービスご利用時の様子や状況をご家族や他事業所から情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やカンファレンスにご入居者の状態報告を行うと共に、連携医療機関にも報告・相談し、対応している。生活行動で疑問がある場合は、ご家族にご連絡・相談し、把握しておくようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケアカンファレンスを行い、ご入居者やご家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。ホーム独自のハートケアプラン表も取り入れ、3ヶ月毎に見直している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望の他、主治医や職員の意見を加えて作成し、長期計画は6ヶ月毎、短期計画とモニタリングは3ヶ月毎を基本として見直している。 心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、利用者や家族等に確認して現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録への記入のほか、カンファレンスを活用しながら情報を共有し、日々のケアに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者やご家族の方と相談しながら、できる限り一人一人の要望に応えられるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事・イベントの際には、ボランティアの方に声をかけ協力して頂いているほか、付近のレンタル店にてDVDを借り、鑑賞する時間を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご入居者が受診される医療連携機関を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等の希望にそって今までのかかりつけ医への受診を支援しているほか、月1回協力医療機関からの訪問診療と週1回訪問看護師による健康チェックがあり、適切な医療を受けられる体制になっており、受診結果は電話や毎月の事業所便りの送付時に家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護師が週1回訪問され、ご入居者の健康観察を行っている。体調に変化がある時は報告し、指示を仰ぎ日常の健康管理を支援している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院中の状態を病院やご家族を通して確認したり、必要に応じてご家族了承のもと医療機関関係者と通院に向けての話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の方針についてご入居者やご家族に説明すると共に、状態変化により重度化した場合はホームとご家族で話し合うほか、係りつけの主治医とも今後の対応を検討している。	重度化や終末期の方針について契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ており、看取り介護については「看取りに関する指針」を作成して重要事項説明書に記載している。 看取りの経験はないが、協力医療機関と24時間連絡体制ができています。 全職員に対して終末期や看取りに関する内部研修を計画するまでには至っていない。	終末期や看取りに関しては、利用者にとって安心して最期を迎えられ、介護を担当する者が不安なく対応ができるよう協力医療機関の訪問看護師の協力のもと、全職員向けの内部研修を行うことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成・設置しているほか、応急手当や初期対応の講習を行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練(地震想定・夜間想定・火災想定)を行うほか、運営推進会議の際に非常時協力の呼びかけをしている。 また、近隣の方や区長・民生委員などにも声かけを行い、災害時協力の体制を依頼している。	年2回夜間想定を含んだ避難訓練を実施しており、訓練後は反省点や課題を記録に残して全職員で話し合い、次回の訓練に活かしている。 避難訓練に地域住民の参加が得られているほか、近隣宅の井戸水や公民館に備えてある毛布の利用が可能となっており、地域の協力体制が整っている。 災害に備えて飲料水や米、缶詰などの食料品や懐中電灯などを備蓄しているが、一覧表を作成して定期的に点検をするまでには至っていない。	災害に備えて備蓄品リストを作成し、食料品や飲料水などに関しては定期的に賞味期限をチェックすることが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間の尊厳・プライバシーの尊厳を理念に掲げ、ご入居者の自尊心を損ねないように注意して声かけ対応を行っている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけやトイレの誘導時など、誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。 事業所便りに掲載する利用者の写真を含め、個人情報を使用する場合は、利用目的を明示して家族等の承諾を得ているほか、個人のファイルは事務室の鍵のかかるロッカーに保管し、情報の漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動やレクリエーションなどご本人がやりたい事を聞き出し、買い物や外食などもご本人の希望に合わせ日時を決め、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、ご本人の希望を取り入れながらご自分のペースで過ごして頂くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は、ご自分で選んでもらっている。理容は、2ヶ月に1回ボランティアの方に来て頂き、切ってもらっている。また、ご入居者が行きたいと思う店がある時は、職員がご家族の方と相談し行けるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事にちなんだメニューを献立表に取り入れ、ご入居者の好みや咀嚼能力に合わせた調理や味付けなどを工夫している。 個々の状態に合わせ、配膳や盛り付け等できる事は職員と一緒に行うよう支援している。	職員によって献立が立てられ、食材は週3回購入しに行っており、利用者の嗜好や咀嚼、嚥下機能に合わせた調理や形態で提供している。 節句やクリスマス、正月などには行事食を提供しているほか、外食の機会を設けて食事が楽しめるよう支援をしている。 職員は利用者と同じ食事を同じテーブルを囲んで摂っており、利用者は職員と一緒に食材の下ごしらえやテーブル拭きなどできることを行い、役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供し、毎回食事摂取量をチェックしている。水分摂取量の少ないご入居者については、水分チェック表で1日の摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいを行い、口腔内の状態把握に努めている。異常があった場合は、連携医療機関に報告し、適切な支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、オムツ交換及びトイレ誘導を見計らって促し、トイレで排泄ができるよう支援している。	職員は排泄チェックシートを基に利用者の排泄パターンを把握し、夜間を含めてできるだけトイレで排泄ができるよう支援をしている。 夜間はポータブルトイレを利用しておむつは使用せず、排泄の自立に向けたケアに努めているほか、ADLが低下しておむつを使用せざるを得なかった利用者がおむつを嫌がりおむつを破ってしまうため、夜間を含め2時間毎にトイレ誘導を行った結果、布パンツ使用への移行につながった利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方については、連携医療機関に相談・助言を頂きながら運動や食事療法を行い、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、毎日入浴できるようにしている。極力、ご入居者の希望の日時に入ってもらっている。	週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望にそって毎日の入浴も可能となっている。 季節により柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を取り入れ、入浴が楽しめるよう支援をしている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけのタイミングを変えたり、職員を替えるなどの工夫をしているほか、利用者の体調により清拭や足浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて日中の活動を多く持ち、適度な疲労と適切な休息・睡眠が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には、処方箋を全職員が確認するほか、変更があった場合は必ず申し送りノートに記入している。 副作用については、連携医療機関や看護師に確認・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味・特技などを教えてもらい、日々の余暇活動に活かし、反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	天気の良い日はベランダや庭で日 光浴をしたり、散歩に出かけた り、行事にカラオケ・外食会・買 い物を取り入れ、なるべく戸外に 出かけられるよう支援している。	天気の良い日は日常的に事業所周辺を散 歩に出かけているほか、水郷公園や梨狩 り、花を見にドライブに出かけたり、外食 やカラオケ店に出かけたりするなど、利用 者の気分転換を図りながら五感を刺激し、 季節を感じられるように支援をしている。 利用者の希望にそって日用品の買い物や 出かけたがたい所があれば一緒に出かけるな ど、柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	金銭管理は大半がホーム側で行っ ており、買い物や外出時には職員 が支払いをしている。ご入居者が ご自分でできる方については、ご 本人がお金を所持したり、支払っ たりしている。 出納長は、面会時にご家族に確認 して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	電話は、基本的に自由に使用して いる。ご自分で連絡できない 方については、職員が代わりに電 話をかけたり、手紙を代筆したり して支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	ホームの周りには季節の花が咲 き、ホールから連なるベランダか らは畑で育った野菜が一望でき る。館内には、ご入居者の普段の 生活風景写真や季節に見合った装 飾を施し、ご入居者が居心地よく ゆっくりと寛げるよう工夫してい る。	居間には利用者と職員と一緒に制作した 折り紙の作品や七夕飾り、カレンダーなど が飾られ、廊下には行事の写真が掲示され て家庭的な雰囲気となっている。 居間の一角には畳のスペースがあるほ か、ソファやマッサージチェアが配置さ れており、利用者が洗濯物を畳んだり、利 用者同士が団らんしたりして自由に過ごす 場所となっている。 居間から通じているウッドデッキからは 自家菜園が一望でき、利用者と職員が一 緒に育てた茄子やプチトマト、西瓜、胡瓜な どの収穫を楽しんでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースとして和室があり、コーナーにはソファが置かれている為、気の合う仲間同志で過ごせるよう場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使い慣れた物や家具を持ち込んで、ご本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。ご自分で整理整頓ができない方については、職員が季節ごとに衣類を交換し、クローゼットに整理して収納している。	居室にはエアコンやカーテン、介護用ベッドが備え付けられている。 利用者は使い慣れたテレビやラジオ、筆筒、時計などの家具のほか、寝具や家族等の写真、位牌など大切な物品を自由に持ち込み、居心地のよい空間づくりをしている。 居室の入り口には利用者全員から個人情報の同意を得たうえで写真入りの表札が掲げられ、自分の部屋が分かるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の主要部には手すりが付いており、安全に生活が送れるように工夫している。玄関はスロープになっている為、車椅子でも出入りがスムーズに行える。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 和楽樹

作成日 平成26年12月30日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	やむを得ない理由により手にミトンを使用している利用者に対してはご家族に説明し同意書を頂いているが、経過観察や再度検討記録の書類を整するまでに至っていない。	定期的にカンファレンスを開き、必要性や妥当性解除に向けての取組みについて話し合い、観察記録や再検用記録の書類を残して行く。	①月1回のカンファレンス時に議題に取り入れ話し合っていく。②観察記録はケース記録の中に毎日の状態を記載するようにする。③ご家族に半年に1回は説明し再度同意書に署名、捺印して頂く。	6ヶ月
2	33	急変時は医療連携機関の主治医や看護師に報告し、指示や助言を仰いでいるが、直接ターミナルケアに向けての研修は行なえていない。	ターミナルケア対象者が発生した場合、慌てる事なくスムーズに支援開始が出来るよう知識や技術等を磨いていく。	①内部研修はもちろんの事、医療面での外部研修にも積極的に参加し、カンファレンスで学んだ事を報告して職員間で共有していく。	1年
3	35	災害に備えて食料品や飲料水を貯蓄しているが、品名、数、消費機嫌を記したリスト表が作成されていない。	備蓄品一覧表を作成し、定期的(半年に1回)に点検を行なっていく。	①リスト表を作成し、品名、数量、消費期限を記載する。 ②半年に1回は確認点検を実施する。(1月、7月)	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。